争議解決報告

亀戸在
日ノ出ゴム争議團整理委員會
向島区寺島町玉ノ井驛前 江東工務内
二月二十日

インフレによる『景氣』は若干の小工場を増加した。また洲満問題以来、重工業工場は新たに熟練工を雇ひ入れねばならぬ程忙がしくなつた。然し新らしく雇ひ入れる数は勿論失業者中のホンの一部分でしかあり得ない。然かも雇われたものは今迄に、かつてなかつたような悪い労働条件のもとに働らかねばならぬ。現に各工場に於いて工場法をすら實行して居ない所が多いのだ。そして此の虐使は、資本家の方では當然の如く振舞つてるのだ。一般世間でも『挙口一致』の秋だから、『口家非常時』だから等々と言つて、資本家が労働者を酷使することを常識化相として居る。之れは資本家が『非常時』に名をかりて労働者を絞つてることを見ないで、資本家の都合のよい宣傳に乗つてるからである。

見よ、労働者は眞正直に、献金運動に参加しとるし、誠をもつて職務に服して所謂『口民協力』を實行してるとき、資本家は『非常時』の宣傳と、名を利用して『口民協働』を破り同胞を酷使して私腹を肥やすことに汲々として居るのだ。故に彼等資本家階級こそ！労働者の敵であるだけでなく、日本の敵であり全民衆の敵である！

斯ように現下の状態は、労働者が酷使反對、待遇改善要求、賃銀値上要求、物價高反對、失業解雇反對等々に『口民的』公憤を加へてケツ起するべき条件を資本家側から與へて居るのだ。近に、労資の決死の斗争をする前夜に面して居るのだ。然かも資本家からの挑戰急なるものがある。!!

我々日ノ出ゴム工業所従業員は、斯かる情勢下に斗争を開始したのは一週間前の二月十四日であつた（別送の経過報告の通り）。尭が我等と同じ思ひの各工場従業員諸君が、熱烈なる資本家への反逆の意氣を示して應援し、他方各々の共通問題の爲めに、工場代表者會議や懇談會、共同斗争委員會等を開催して、將に我等と合流せんとする重大なる氣配に、資本家側は恐怖し、遂に本日午后我等の要求の大部分を容れて解決した。そして明後日より一名を除き全員復職することになりました。

此のことを諸君に報告と感謝にかへると共に、諸君の参考に供するものであります。

覺書

一、今度日ノ出ゴム工業所ニテ従業員トノ間ニ起リシ争議ハ昭和八年二月二十日、相方接渉ノ結果左ノ条項ニ依リ円満解決セリ。茲ニ後日ノタメ覺書二通ヲ作セイシ当事者間ニ保有ス（金一封金五十円也ハ記載セズ）

條項

一、最低賃銀ヲ支給（見習中）

一、一二、他ハ営業ノ発展ニ依リ考慮ス。

一、要求項中一、九、十、十一、十二、十三、十六、二十、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、八、近日中ニ實施ス

昭和八年二月二十日 工場側 早田広滋
争ギ団 古川マサオ
立合人 石黒、南、

争ギ団會計報告

収入	寄附金	一、九〇
	金一封	五〇、〇〇
	計	五一、九〇
支出		五一、九〇

支出内譯、

被解雇一名一月半分、	二二、五〇
争ギ日給全額五名	一七、五〇
争ギ中半途参加、半額、	三、七五
印刷ヒ	一、五〇
交通ヒ	一、一〇
部屋借札	一、五〇
争議團紀念寫眞	三、二五
雑ヒ	八〇

右之通り

争ギ次才参加 十七名
男二名 女十五名
内 争ギ脱落 十一名
男二名 女九名
内 逆宣傳ト爲ラシエヨリ、家族に連レ行カレシ者
少年一名 女四名
最后迄ノ者 四名、